

皆様おはようございます。ご家族で暖かいお正月の時をお過ごしになられたと思います。雪はありませんが寒いこの頃どうかご健康にご留意ください。広島県は新型コロナにて、蔓延防止措置が発令されました。このところ急激な感染拡大の知らせが届いております。恐ろしい思いがいたします。皆様ご自身とご家族、教会の家族の健康のため、またこの地域の方々のお守りをお祈りして参りましょう。

今日は、病で瀕死の息子の癒しのために長い距離をかけてイエス様のもとに行ってこの癒しのために嘆願する父親の感動的な出来事が記してあります。

その前に2日後イエス様はサマリアになお滞在されたと言うことが書いてあります。井戸のあの女性との出会いの後、サマリアの人たちもイエス様に出会って喜び、イエス様もそのような人たちとの出会いにお喜びになられ、不思議がる弟子たちに、「わたしにはあなた方の知らない食べ物がある」と、宣教の醍醐味と喜びを語られました。

イエス様はイスラエルの家の子供のために遣わされたとあります。けれどもここで多くのサマリアの人が救いに預かったと言う事は慰め深い出来事でした。そしてイエス様は預言者は自分の故郷では敬われないものだと言われました。しかしここガリラヤでは人々はイエス様を歓迎しました。ふと考えますと、イエス様がここで言われる故郷では敬われないと言うのはどこなのかということと考えますと、ヨハネ一章を思い起こします。

1:10 言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。

1:11 言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。

イエス様は自分の民の所へきたが民は受け入れなかったのです。この言葉を考えますとイエス様の場合、生まれ育った土地というのがガリラヤであり、故郷ですけれどもイエス様はご自分の選民この民を用いて神の栄光を表すと言うそのユダヤエルサレムの人たちに受け入れられなかった。それがご自身のおっしゃる故郷の人たちから敬われないということなのではないでしょうか。ひいてはこの世界全体を創造された創造者がご自分の国に来られ、人はこの方を拒絶したのですから、「故郷で敬われない」とは、広げれば、今日の世界全体の私たちのことを指すのではないかと思います。

45 ガリラヤにお着きになると、ガリラヤの人たちはイエスを歓迎した。彼らも祭りに行ったので、そのときエルサレムでイエスがなされたことをすべて、見ていたからである。

4:46 イエスは、再びガリラヤのカナに行かれた。そこは、前にイエスが水をぶどう酒に変えられた所である。さて、カファルナウムに王の役人がいて、その息子が病気であった。

4:47 この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞き、イエスのもとに行き、カファルナウムまで下って来て息子をいやして下さるように頼んだ。息子が死にかかっていたからである。

ガリラヤの人たちはイエスを歓迎しました。彼らも祭りに行ったのでその時エルサレムでイエスがなされたこと全て見ていたからです。この祭りの出来事は詳しくは書いてありませんけどもヨハネ2章のところにあります。

2:23 イエスは過越祭の間エルサレムにおられたが、そのなされたしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。

ここに、カファルナウムから来た一人の人が嘆願に現れます。

カファルナウムからカナまでは高低差ない600メートル、距離は40キロメートルの道のりです。そして息子が死にかかっていた瀕死の状態だったその山道を過酷な道を早く早く死んでしまっっては取り返しがつかない急いで急いでお付きの者達とイエス様の所に転がり込むようにやってきました。

イエス様は、そんな長い距離を息子のためにやって来た、もう大丈夫だよと言う言葉をおかけになったのかと思いきや、

48 イエスは役人に、「あなたがたは、しるしや不思議な業を見なければ、決して信じない」と言われた。

あなた方はしるしや不思議な業を見なければ決して信じないと言われた突き放すような言い方をされました。

49 役人は、「主よ、子供が死なないうちに、おいでください」と言った。

瀕死の息子の父親は、一步も引きさがらず、嘆願します。イエス様だけが最後の望みですから。

この父親は、仮に死に目に会えなくても最後の望みをイエス様におかけする、そのために遠くから信じてやってきました。どうか私と一緒にお願いしますと語ります。そのすぐる切実なお父さんは、果たしてしるしや不思議な業を見なければ決して信じないとイエス様がおっしゃるそのような人なのでしょうか。イエス様はこのお父さんの切実なる願いを聞いておられました。そして一緒に出向いて行って時間をかけてそしてその子の前で立って癒すまでもない、帰りなさいあなたの息子は生きるとおっしゃってくださいました。

50 イエスは言われた。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」その人は、イエスの言われた言葉を信じて帰って行った。

たちどころに偉大なる神様のお力を、その言葉によって発揮してくださいました。これは本当に大きな出来事でした。そこに出向いて子供を目の前にして手を置いて癒すこと、そのことも素晴らしい奇跡の業ですけども、遠く離れている人に対して、言葉を即時的に実行してくださることはそれにもまして素晴らしいことです。

イエス様のお父さんの切実さの願いに対する応答は本当に誠実なものでした。その温かさと力強さを信じてお父さんは言われた通りに帰りました。そのあなたの息子が生きると、その人はイエスの言われたことを信じて帰ってきました。そんなことおっしゃらずにどうか一緒にお願ひしますここで私に言葉を語ったところで息子が治るわけじゃないじゃないですか。それで私が帰って息子が死んでいたら私はどうしたらいいのですか。お父さんにはいろんな疑念がなかったのでしょうか。心配がなかったのでしょうか。しかしこの人はイエスの言われたことを信じて帰って行きました。

4:51 ところが、下って行く途中、僕たちが迎えに来て、その子が生きていることを告げた。

向こうからも喜び溢れてご主人様の子供が治りました、喜んでくださいと叫びました。行くときにはつらかったその道の真ん中で彼らは出会って、イエス様本当にありがとうございます、本当にあなた素晴らしい、力強い方だと感謝しました。

その山道の寂しい山道の真ん中に喜びの叫びがありました。

4:52 そこで、息子の病気が良くなった時刻を尋ねると、僕たちは、「きのうの午後一時に熱が下がりました」と言った。

4:53 それは、イエスが「あなたの息子は生きる」と言われたのと同じ時刻であることを、この父親は知った。そして、彼もその家族もこぞって信じた。

「生きる」と言う言葉 50 51 53 節に三度繰り返して記してあるその言葉が目にとまります。

50 イエスは言われた。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」

51 ところが、下って行く途中、僕たちが迎えに来て、その子が生きていることを告げた。

53 それは、イエスが「あなたの息子は生きる」と言われたのと同じ時刻であることを、この父親は知った。

「生きる・生きる・生きる」この言葉私たちの胸を打ちます。

神様は私たちを我が子として神様の息子が娘が、「私の息子が」全て生きるように深い深い愛の気持ちで私たちが生きるようにとしてくださいました。そのためにイエスキリストを十字架にかけてくださいました。私たちが生きるよう

に。このお父さんが山を越えてイエス様のもとに尋ねて行ったその深い愛情にも勝って、神様はもっと深い愛を持って世界の全ての人を子供として扱ってられます。そして愛するひとり子イエスキリストを犠牲にしても構わないと言う気持ちを込めて私たちを愛して、死なないように、永遠に生きるようにと犠牲を払ってくださいました。神様の深い思いを心に留め、そしてお守りを信じて、私たちもまた失われている神様の息子たち娘たちへのご奉仕のために向かわせていただきたいと思います。願うのです。